

事務連絡
令和4年4月4日

各都道府県
全日本学校関係緑化コンクールご担当者様

全日本学校関係緑化コンクールの調書作成に際してのお願い

令和4年4月1日付け国緑4第16号にてご案内しました「令和4年度全日本学校関係緑化コンクールの実施」につきまして、調書の作成・提出に際しては、下記にご留意いただきますようお願い致します。

1 提出する調書について

- ① Word版は当機構Webサイト<<https://www.green.or.jp/news/>>に掲載しておりますので、ダウンロードしてご活用下さい。
- ② 各様式の「作成上の注意事項」として、「調書は、すべて……上とじとし」とありますが、ホッチキスやクリップ等を使用した簡易留めで綴じてください。
- ③ 作成した調書は、紙での提出と併せ、電子データでも提出してください。送達方式については、電子メールやデータ便、記録メディア等を使用し、PDFと合わせて、審査書類作成に必要となることから、Word、Excelなどテキスト抽出が可能な形式の提出もお願いします。

※電子データでの提出先：forest@green.or.jp

- ④ 調書の項目等は改変せず、指示通りの記述を行って下さい。

2 その他

別添「令和3年度全日本学校関係緑化コンクール総評」を参考とし、現況や活動を適切に反映した記述を行ってください。

担当：国土緑化推進機構 大松
TEL：03-3262-3883

令和3年度 総評

新型コロナウイルスによる学校休業など教育活動に制限がされる中で、工夫をしながら緑化活動に取り組んでいる各学校の様子がわかった。学校の規模(児童生徒数・職員数)により緑化活動の規模や内容にも差ができてしまうことは如何ともしがたいが、規模・地域性などを考慮して審査を行った。以前の入賞校などからの参加もあり、前回の内容とのちがいをしながら審査を行ったが、常連(?)校(または、都道府県)の調書は細かく書かれており、各学校の緑化の状況をイメージしやすいものがあった。また、児童生徒・職員だけでなくPTAや地域がより積極的に緑化活動に関わる学校もあり、今までにはない活動の報告もされていた。コロナ禍でもあり例年ならば外に向けた活動も多くあったが、今年度については校内でのものが多かった。

そのような状況の中でICTを活用した取組みがいくつかの学校から報告されていた。調べるためのツールとしてだけでなく、記録をしていく形の取組みから、時代を反映してSNSの活用もあり、新たなスタイルでの活動として今後期待をしていきたい。

緑化活動を学校全体の取組みとして行うためには、職員間の共通理解が重要であり、職員研修については行っていない旨の報告がされている学校も見受けられたが、今後は検討をしてもらいたい。さらに、研修において技術的な内容(樹木の剪定等)が報告されている学校もあり、その研修内容をいかして児童・生徒が実際に体を動かして取り組む姿勢が見て取られてよかった。

「SDGs」や「ESD」を意識した報告が多くあり、ただ単に校内や地域の緑化にとどまらず、広く「環境教育」としての活動が多くなってきていると感じた。

例年のことであるが、野菜の栽培など「収穫」を伴う内容や、収穫された作物を使っの食の体験や地域における清掃・資源回収などについての報告がされていたが、広く「環境教育」の枠組みとして審査を行った。

「木登りのしかたを上級生が下級生に教える」、「樹木の剪定を児童生徒が行う」など実践的な体験を通した活動報告があったが、十分に安全を配慮した中でのもものと予想される。このような実践的な活動を通しての体験は、今後児童生徒にとって大きな糧となるであろうし、今後の変容に期待が持てる。

校内の樹木マップや樹木台帳については各校により扱いに差があった。調書をもとに審査をする場合には、各学校の緑化状況をイメージするもととなるので、なるべく詳細な形のもを報告してもらいたい。